

# 令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 名称 東京都立墨田川高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 協議委員の構成 有識者(1)、近隣中学校長(1)、地域有識者(1)、保護者代表(2)、同窓会代表(2) 合計7名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、総務部主任 合計7名
- (4) 事務局の構成 事務局長(総務部主任)、他総務部担当者 合計2名

## 2 実施の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の実施概要
  - 第1回 令和4年5月14日(土) 出席:協議委員7名、内部委員7名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
令和3年度学校経営報告、令和3年度学校運営連絡協議会報告、令和4年度学校経営計画、本校の現状と課題等の概要説明、意見交換
  - 第2回 令和4年11月5日(土) 出席:協議委員6名、内部委員7名  
授業公開、これまでの教育活動に関する報告、教育活動に関する意見聴取、学校評価アンケートの内容検討・意見聴取、意見交換
  - 第3回 令和5年3月4日(土) 出席:協議委員7名、内部委員5名  
令和4年度学校経営報告、学校評価アンケート結果報告・協議、次年度学校運営に関する提言・方向性の確認
- (2) 評価委員会(第1・2回)の実施概要
  - 第1回 令和4年11月5日(土) 出席:協議委員2名、内部委員2名  
令和4年度学校評価アンケートの観点・項目等内容の検討、実施時期の検討
  - 第2回 令和5年3月4日(土) 出席:協議委員2名、内部委員2名  
令和4年度学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(案)の検討

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - 11月 全校生徒 対象:891人 回収:721人 回収率:81%
  - 12月 保護者全員 対象:891人 回収:275人 回収率:31%
  - 12月 地域・住民 対象:150人 回収:43人 回収率:29%
  - 12月 教職員 対象:70人 回収:65人 回収率:93%
- (3) 主な評価項目  
学習指導、探究活動、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、教育相談、国際教育、施設・設備、学校広報、ライフ・ワーク・バランスの推進

#### (4) 評価結果の概要（学校全般への意見・提言内容）

##### ① 授業に関する項目

授業満足度や進学に向けた授業内藤は、生徒、保護者、教職員（以下：三者）ともに、肯定的回答が7割を超え、少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長が生かされていることが読み取れる。家庭学習を前提とした「学びのサイクル」の定着に関しては、三者ともに肯定的回答が3～4割にとどまっており、課題である。

##### ② 進路指導、探究活動に関する項目

進路情報の適切な提供や面談を中心とした進路指導の満足度は、三者とも8割に迫る肯定的回答を得た。一方、探究活動の満足度は、肯定的回答が5～6割にとどまった。

##### ③ 生活指導、学校行事・部活動に関する項目

生活指導については、服装や登下校時のマナーなど基本的な指導の徹底については、三者とも7～8割が肯定的回答であったが、生活指導についての理解や納得が得られているかについては、保護者や教職員は7～8割が肯定的であったが、生徒は5割程度であり、十分に理解や納得が得られているとは言い難い結果であった。学校行事と部活動の満足度は、三者とも8～9割が肯定的回答であった。ただし、教職員の部活動に関する肯定的回答は7割であった。

##### ④ 教育相談、国際教育などに関する項目

教育相談に関しては、肯定的回答が昨年度に比べて1.5ポイント上昇し7割であった。国際交流の推進に関する肯定的回答は、生徒が2割、保護者と教職員は1割であった。

##### ⑤ 施設に関する項目

施設・設備などの教育環境の整備の肯定的回答は、生徒が4割、保護者が5割、教職員が3割にとどまった。エアコンは、今年度整備と調整を行って冷暖房の効率が上がった。次年度の夏は改善できる見込みである。

##### ⑥ 学校広報、教職員のワーク・ライフ・バランスに関する項目

学校ホームページの充実についての肯定的回答は、保護者と教職員が6～7割だったのに対し、生徒が4割、地域が3割であった。部活動を中心とした情報を積極的に発信していくことが求められている。また、ライフ・ワーク・バランスの取組への理解については、保護者が3割、地域が1割であり、教職員も3割未満であった。より一層の取組の推進と情報の提供が必要である。

##### ⑤自由意見について

施設、校則、授業に関して改善要望が多かった。トイレをはじめとした施設については、引き続き都に改修の要望をしていく。大規模改修の対象とはなっていないため、当面は美化に努めていく。百周年記念事業として図書館、自習室の整備が予定されている。引き続き、生徒の学力向上に向け、学習環境を整えていく。また、一部教員による信頼を失う指導や対応についての意見も散見された。

#### 4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画への反映)

##### (1) 学習指導について

○ 少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長をより一層生かしていくとともに、家庭学習時間等の確認指標を検討する。また、生徒や保護者からの「課題が多い」との自由意見を踏まえ、教科等で「自発的な学習」を促す工夫を検討していく。

○ 大学入学共通テスト得点率7割以上の生徒の増加のため、成績上位層への効果的な指導により一層の伸長を目指す。また、習熟度別授業の利点を生かし、成績上位層と下位層それぞれに対する指導の充実を図る。

- 授業の相互参観や授業中のグループ・ワークや話し合いによる「主体的・対話的で深い学び」はその機会が増えている。今後、大学入学共通テストの得点力向上のために、教科等を中心に工夫改善を進めていく。
  - ICT及び一人1台端末、学習支援アプリ等の適切な活用については、授業やホーム・ルーム、勉強合宿などの学校行事で活用されたが、個々の担当者や年次担任での取り組みにとどまっている。今後、「学びのサイクル」定着のためにスケジュール帳、学習支援アプリ等を活用し、定着を図るとともに、「総合的な探究の時間」や進路指導、学習支援アプリの配信等、教科や分掌での組織的な活用を推進していく。
  - 早朝及び放課後自習室を開設し、学校での学習時間確保と環境整備を目指す。また、墨水会による図書館備品等の改修及び自習室整備等を円滑に進めることにより、自習室利用者の増加を図る。
- (2) 進路指導及び「総合的な探究の時間」について
- 情報提供も含め進路指導への満足度は8割程度であったが、大学進学実績は、昨年度を下回った。成績上位層は一定程度存在するが、諦めさせない指導の継続に課題があった。次年度は、国公立大学を志望する生徒に対して情報提供を一層充実させるとともに、新設する年間3回の面談週間を効果的に活用するなどして、最後まで諦めさせない指導を組織的に継続して行う。合わせて中期・後期日程の受験を促す指導を継続する。
  - 第一志望校を2年次のうちに決定させるとともに、2年次の秋以降の進路指導を充実させ、志望大学・学部・学科等を明確に意識した受験準備に当たれるよう指導する。
  - 「総合的な探究の時間」の満足度は約6割であった。次年度は、「探究推進部」を新設し生徒の知的探究意欲向上のため、千葉大学との連携による大学訪問や模擬講義等を実施するなど、一層の充実・発展を目指す。また、進路行事や選択科目説明会等とを効果的に連関させながら、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫するとともに、その成果を活用した「総合型選抜」受験生徒への指導の充実を図る。
  - 英語4技能伸長を基礎として、英検等資格取得に向けた指導を充実させるとともに、海外姉妹校交流や海外語学研修を目指す国際教育を推進していく。
- (3) 生活指導及び学校行事・部活動について
- 学校行事の満足度は生徒・保護者ともに90%と高かったことから、今後も新型コロナウイルス感染拡大に十分注意しながら、体育祭、七高祭、合唱祭、2年次生修学旅行などの学校行事を生徒が主体的・自主的に取り組めるよう指導していく。
  - 学校生活満足度は約8割であり、自主的・主体的活動に関する肯定的評価も僅かに目標値を達成できなかったことから、今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えているという実感と充実感を得ることにより、生徒の学校生活や行事満足度をより高めていけるよう生徒指導部と年次担任団が連携して指導を工夫改善していく。
  - 生活指導についての理解や納得については、保護者や教職員は7～8割が肯定的であったが、生徒は5割程度であったことから、今後も生活指導主任の講話などを通して生徒への説明の機会を増やす。また、自由意見でも校則が厳しいとの意見が複数あったことから、次年度は、生徒会を中心に対話を深めながら、必要な校則についての共通理解を深めながら、校則についての不断の見直しを図る。また、地域から登下校時、生徒が通学路に広がることなどが散見されるとの意見があった。引き続き自転車を中心とした交通安全指導を行う。
  - 部活動の満足度は、生徒・保護者とも約8割であった。今後も活発な部活動を維持・継続するとともに、「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく部活動と学習の両立に向けた指導を行っていく。

#### (4) 健康・安全教育と相談体制の充実について

- 「相談体制の充実」については肯定的回答が大幅に増加したが、心の不調による保健室利用者が一定程度存在することが課題である。今後は、学習と部活動等との両立を図る指導を継続するとともに、教科や年次担任団による課題分量の把握や調整を行う。

#### (5) 生徒募集及び学校広報について

- 学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生及び塾指導者対象説明会を含めた来校保護者等はいずれも目標値を2割程度上回ったが、推薦に基づく選抜の応募人員は、目標値と昨年度を下回った。また文化・スポーツ特別推薦の応募者数は、サッカー4名、柔道3名の計7名にとどまった。今後、文化・スポーツ特別推薦の生徒募集の対策と対象種目及び募集人員について検討していく。学力検査に基づく選抜の最終応募人員は、昨年度を上回ったが、目標値を達成できなかった。今後、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校の特色をより効果的に発信し、第一志望生徒の増加を図る。
- 学校ホームページは、12月によりやくリニューアルを完了したが、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答が低かったことから、情報発信の頻度や方法等に課題が残った。部活動や学校行事等、本校の特長を効果的に発信するよう改善していく。

#### (6) 学校施設及び学校組織運営について

- 学校施設等の教育環境の整備については、満足度が低かった。学習環境の整備と効果的な生徒募集対策のために、施設・設備の点検や修繕を要望していく。特に、自由意見に多かった校舎の老朽化に伴うトイレ及び空調等の施設改修については、引き続き都教育委員会に要請していく。
- 夏休みの完全消化、学校閉庁日の実施等、教職員のライフ・ワーク・バランス実現に向けた意識は高まりつつあるが、一部の教員の在校時間の長さは課題である。また、教員の働き方改革の取組を知っている保護者は約3割であった。今後は、欠席連絡のメールへの変更や留守番電話機能設定などの周知を通して、理解と協力をお願いしていく。
- 学校運営連絡協議会の意見や学校評価アンケートの結果を適切に公開・検討していくとともに、教員研修等において活用していく。
- 自由意見に散見された本校教職員の待遇等の要望について真摯に受け止めるとともに、個人情報保護や情報セキュリティに対する教職員の意識を向上させるとともに、体罰やサービス事故を根絶するためのサービス事故防止研修や管理職による指導を徹底していく。

### 5 「学校が良くなった」と考える協議委員の人数（協議委員7名）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	3					

### 6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員の職員会議への参加はなかったが、百周年記念事業実行委員会、学校サポートチーム等、協議委員が他の委員を兼ね、年間の交流が増加し、率直な意見をいただくことができた。

### 7 その他

- 保護者対象アンケートの回収率を更に高めるため、次年度は保護者会等を活用する。
- 評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。

以上